



全国学力・学習状況調査結果報告「後期課程」

4月18日（火）に行われた全国学力・学習状況調査の主な結果についてお知らせいたします。これは毎年小学校第6学年と中学校第3学年（本校は6年生と9年生）を対象とする悉皆調査（令和2年度は中止）です。目的は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることであります。以下に、その結果を示しますので、伊豆市のリーフレットと併せてご覧ください。

教科に関する調査の結果



県・全国平均との比較

国語は、県・全国平均を下回りました。数学・英語は、平均と同程度でしたが、英語「話すこと」は、平均を下回りました。しかし、結果は4月時点における学力・学習状況の一部にすぎません。一人一人に目を移すと、本調査に取り組んだ生徒それぞれに成果と課題があります。結果に一喜一憂することなく、今後も生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上に努めていきたいと思っております。

【本校と県・全国の平均正答率との比較表】

	県平均との比較	全国平均との比較
国語	△	△
数学	○	○
英語	○	○
英語「話すこと」		△

◎・・・県・全国より高い

○・・・県・全国と同程度

△・・・県・全国より低い

と表記しています。



国語

全体としては全国・県平均を下回りましたが、設問によっては平均を上回ったものもありました。特に「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問できる」「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる」で平均を上回り、「話す・聞く力」が身に付いていることがわかりました。一方で、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる」で平均を大きく下回り、「書く力」に課題があることがわかりました。国語の授業や普段の読書で様々な文章を読むことを通して、「どのように書けばよいのか」を理解すること、意見文や批評文、物語など様々な文章を書く活動を通して「どう書けば伝わるか」が身に付くように学習を進めていきたいと思っております。

数学

県・全国平均を大きく上回ったものは、「反比例の意味を理解している」「累積度数の意味を理解している」「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる」でした。関数やデータの活用についての知識・理解が高いことがわかりました。また、県や全国平均と同程度、あるいは下回った問題があります。「数と整式の乗法の計算ができる」「空間における平面が同一直線上にない3点で決

定されることを理解している」です。これらは、選択式や短答式の問題で、数学的用語の意味や学習内容をもう一度確認することが必要です。また、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる」は、記述式の問題で、論理的に証明していく力が必要です。分野によって、また、問題形式によって、県・全国平均より低い問題があることから、むらなく学習していく必要があります。基礎基本の定着に力を入れ、求める場面をよく判断して的確に答えを導き出す力を育てていく授業を目指していきたいと思ひます。

英語

全体的には、県・全国平均と同程度の結果でした。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のどの分野でも、基礎的な内容の聞き取り・読み取り・英作文において県・全国平均を上回っていました。一方、やや長い英文を読み取った上で、その内容に合ったポスターを選ぶ問題や学校紹介の文を25語以上で英作文する応用的な問題に課題が見られました。今後は、図・表・ポスターを含む英文の読み取りやテーマに沿って即興でまとめた作文をするなどの活動を授業の中で増やしていく必要があります。

生徒質問紙に関する調査の結果



学校生活

自己有用感、規範意識についての質問が平均を大きく上回りました。「自分には、よいところがあると思ひますか」「人が困っているときは、進んで助けますか」で、高い数値でした。また、「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思ひますか」で高い数値でした。今までの取り組みの成果がでていふと思ひます。今後も、異学年交流（縦割り活動）での友だちの良さを見つけるワークシートを用意し、掲示したり伝え合ったりする活動を通して、内容の共有をしていふます。他者から自分の良さを指摘されたり感謝されたりすることは、自分に新たな気づきをもたらし、自己肯定感の醸成に役立つものと考え、こうした活動を今後も意図的に取り入れていふたいと思ひます。

学習

「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていふますか」では、『当てはまる』『どちらかといえば、当てはまる』で80%以上でした。しかし、「各教科で学んだ事を生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」では、『どちらかといえば、当てはまらない』と回答した生徒もいふるので、家庭学習の時間も含め、自分に合った学習方法を見つけることも大切であると考えます。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」や「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」でも、県や全国平均を大きく上回りました。県・全国平均を下回った国語もそうですが、各教科で子どもたちが毎日取り組む学習書や課題などについて、学習する内容について助言するなどしていふます。また面談などの場で個に応じた学習の助言をしていふたいと思ひます。

地域・家庭

地域とのつながりの度合いを問う設問「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では、平均を大きく上回りました。学校行事では、日頃より保護者の皆さまを始め、地域ぐるみで温かいご指導をいただいております。皆さまのご協力に改めて感謝しております。個人に関することでは、「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」など、高い水準でした。規則正しい生活ができるからこそ、学校生活が意欲的に取り組める原動力になっていると思ひます。